



■ 発信元
 SPARCS事務局
 ■ 発行責任者
 院長 吉田茂昭
 ■ 連絡先
 青森県立中央病院 経営企画室
 (電話) 017-726-8402
Vol. 5
 2013年10月1日発行

骨転移痛 への 放射線治療 について

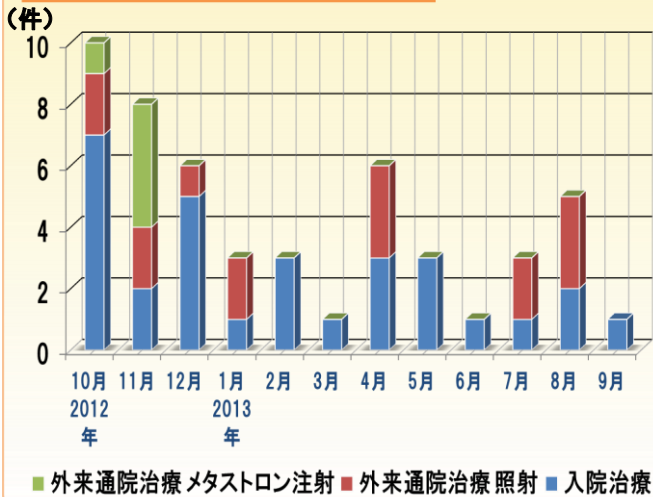
昨年度、当院での骨転移痛への放射線治療実施件数を調査した結果、骨転移によるNRS 5以上の痛みがある患者17人のうち、放射線治療が実施されたのは9人と、少ないことが明らかになっております。その後も、腫瘍放射線科のご協力を得て骨転移への放射線治療件数を調査してきましたが、結果は(図1)の通りです。がん治療が主体である急性期病院としては、他施設と比較しても放射線治療件数は少ない現状です。

放射線治療の骨転移痛への改善は60~90%と言われており、今後、放射線治療について検討して頂きたい。国立がん研究センター中央病院：放射線治療科病棟医長の角美奈子先生、当院の腫瘍放射線科横内先生とともに放射線治療について皆様方と意見交換する場を10月21日に開催致します。

皆さまぜひご参加いただきますよう宜しくお願い致します。

骨転移治療件数 (患者ベース)

<図1>



Topics

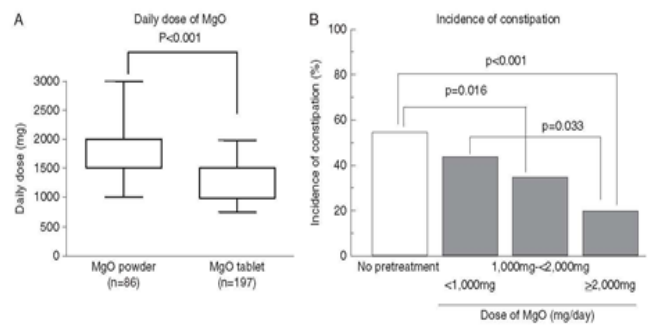
酸化マグネシウムによる便秘治療は1000mg未満では不十分!

2013年1月から、薬剤師と外部医師によるオピオイドカルテ回診『SCOPE』を始めております。

オピオイドによる副作用対策では便秘が最も多く、下剤の増量について推奨するケースが少なくありません。

電子カルテ上での酸化マグネシウムの投与量をみると1000mg未満の処方が多く見受けられますが、先行研究(図2)のごとく1000~2000mg/日以上が必要であることが明らかになっております。

便秘治療で酸化マグネシウムを処方する際に、ご参考頂ければと思います。



<図2>

Ishihara M, et al. Clin J 2012 Jun;28(5):373-81.

10/19 (土) 時間: 14:00~

場所: 青森県立中央病院 3階 研修室

「がん患者の子どもに対する支援について」

平成25年度文部科学研究費補助事業「がん患者の子どもに対する親の療養から死別までの支援のあり方についての研究」からの依頼を受け、がん患者が子どもにどのようにがんを伝えるのか、どのように接していけばいいのか等、がん患者とその子どもに対する支援について研修会を開催致します。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

講師: (独)国立がん研究センター中央病院
 Hospital Play Specialist 小嶋 リベカ 先生
 緩和医療科 科長 的場 元弘 先生



研修会と講演会 開催のお知らせ

10/21 (月) 時間: 17:30~

場所: 青森県立中央病院 3階 研修室

「がん疼痛緩和と放射線治療について」

講師: 青森県立中央病院
 診療放射線科 部長 横内 順一 先生
 (独)国立がん研究センター中央病院
 放射線治療科病棟医長 角 美奈子 先生